



会報 第39号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
● 編集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株)井上総合印刷

雑感



同窓会会長

菅谷善六

会員の皆様には、ご健勝にて、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

また、同窓会の諸活動には種々ご支援、ご協力を賜りまして深くお礼と感謝を申し上げます。

毎日の新聞に「虐待」の文字が「子どもは人類の未来であり、子育ては未来社会の設計という人類がなし得る最も創造的な営みである」これは、過日発表され

た「これからの家庭と子育てに関する懇談会」の報告書の中の一節である。これまで、家庭や子育ての問題を社会全体の問題としてとらえるという視点は必ずしも強調されてこなかったが、これからは家庭や子育てのあり方についてや社会全体が関心を高め、国民的論議が展開されることが重要である。

親になるための教育 自分に望ましい状況の

実現を他に求め、他を非難し、他に不平不満を抱いている状態から、他から批判される立場に立つて、周りをよくするために自らを改めていく姿勢にかかわることによって、人は成長し心の自立を得ることが出来る。

今日、人々は親であるのに必要な教育を受けないうまま親になっているために、子供のしつけの仕方がわからず、自信を持つてわが子を育てることが難しい時代に入っているように思われる。子供たちは、物が豊かで欲しいものは容易に手に入る大変便利な生活の中で、大事に大事にと育てられていくことによって、自分が直接痛目をする生活

と、そこに期待できずともない。学校はというと、わが子の進学、就職に対する親心の前には大変無力になっていくように見える。では、地域社会に求めているのかといえ、とてもその力を発揮するようには思えない。

だが、今なすべきことは、責任を他に転嫁することなく、家庭は家庭で親が賢くなること、学校は学校で親となるための教育課程に位置づけて実践すること、地域社会は地域社会で子供たちに社会性を身につけさせる具体的な行動を起こすことである。それぞれが主体的に対応するしか現代の愚かさから自由になる方途はないのである。

伝統の力



校長

大木高之

同窓会の皆様には、平素より本校教育活動に対して格別のご支援とご理解を賜り、深く感謝を申し上げます。

はじめに、今年度も本校生徒の目覚ましい活躍が展開されましたので、その主な成果についてご報告いたします。部活動関係ですが、本校のお家芸ともいえるラグビー部が今年も大きな成果をあげました。中でも、第六十九回国民体育大会長崎県大会では、折原梨花さんが一〇mビームライフル少年女子個人立射四〇発競技並びに二〇発競技の二種目で優勝し、全

国制覇を成し遂げてくれました。また、エアライフル少年女子個人で三年三組の里川日向子さんが八位入賞、デジタルピストル少年男子個人で三年二組の海野竜之介君が八位入賞と大活躍を見せ、本校ラグビー部の伝統を全国に轟かせてくれました。さらに、第十四回全日本ジュニアビームライフル射撃競技会女子団体準優勝など、様々な大会において団体や個人で多くの入賞者を出すことができました。他の部活動においても、弓道部や女子バレーボール部、卓球部、演劇部、写真部、吹奏楽部が各種大会で実

績を残しており、本校部活動の活力を一層感じられる年となりました。次に、専門学習の成果について紹介したいと思います。食品科学科三年の伊澤菜摘さんが、日本学校農業クラブ全国大会において農業鑑定競技「食品科学コース」で優秀賞を獲得しました。また、プロジェクト発表では、十数年ぶりに関東大会に出場し、区分「環境」の農業機械科三年の大森翼君他九名、区分「文化・生活」の食品科学科三年の鈴木佳奈さん他五名の二チームが優秀賞を獲得しました。さらに、昨年十一月八日・九日に井頭公園を会場に開催された第三回とちぎ元気グルメまつりにおいて、食品科学同好会が文珍楼、真岡工業高校との共同研究によって商品開発した「いちご飯バーガー」が見事、栃木県一位となるグラン

プリに輝きました。一方、総合ビジネス科では各種の高度資格取得において昨年度の実績を超える合格者を数多く出しました。そして、教養福祉科では三年連続となる介護福祉士の国家試験に一〇〇％合格という大きな実績を残しました。こうした本校生の実績は、伝統の上に裏付けされた自信と誇りが成せる成果だったと思っております。

続きまして、今年の三年生の進路についてですが、昨年に続いて就職・進学共に大きな成果を上げています。今年度の求人数はここ数年では最も好調であったこともあり、就職希望者百十三名の全員が内定を受けることができました。これも、開校当初から本校が地域に密着した教育活動を推進してきた信頼の証であり、歴代の先輩方から脈々と受け継がれて

きていく地域貢献の精神によるものと思っております。進学については、四年制大学への進学が十三名と昨年より大幅に増加しました。その他、短大や県農業大学校、専門学校への進学者が四十五名となっております。この結果は、生徒・教職員全員が進路実現に向けて精一杯取り組んできた成果によるもので、まさに、学校の総力を結集して勝ち取ったものであり、本校生徒・教職員の努力に対して敬意を表するとともに、この上なく誇りに思っております。

本校は平成二十九年度に創立百周年を迎えることになりました。平成二十七年には、創立百周年記念事業準備委員会の発足を予定しております。今後、この節目となる事業に向けて、同窓会の皆様方のお力添えをお願いいたします。

青年部長

あいさつ

平成十七年度卒

野原理恵子



平成二十五年四月より青年部長をしております。野原理恵子です。会報の発行にあたり御挨拶申し上げます。日頃から青年部の諸活動に對しまして御指導、御協力を頂戴して誠にありがとうございます。

現在、様々な行事に参加するにあたり、人数が減少する傾向にあり、実施が困難になっております。今年、卒業される方で、協力できるという方は、是非、活動に参加して頂きたいと思っております。最後になりますが、今後とも、青年部をよろしくお願ひ致します。

ん。そのために本校は、百年を超える歴史の中で育まれてきた地域に根ざした専門高校として、時代の変革や地域の要請に応えるべく、教職員が一丸となってその使命を果たしていく所存であります。どうか、同窓会皆様方には、なお一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

PTA会長あいさつ

PTA会長・

母親として



PTA会長
篠崎 ゆり子

平成二十六年年度PTA会長を仰せつかりました篠崎ゆり子と申します。同窓会の皆様には、日頃より本校生徒のためご協力ご支援を頂きましてありがとうございます。

今、子供たちを取り巻く環境は、不安定な世界経済の中、そして価値観の多様化やインターネット情報の氾濫など様々な面で目まぐるしい変化を続けています。青年期の

真っ只中にいる子供たちは、勉強に励みスポーツを楽しむ時期であると思えます。しかし、体力的に大人であっても、精神的にはまだまだ大人になりきれない部分もあり、ちょっとした弾みで問題を起こしてしまうこともあります。

また、子供たちには、学校にいる時の顔と家庭の中の顔があります。私たち親は、家庭の中の顔

消防本部長就任おめでとういっしょにいきます



芳賀広域消防本部
消防長として
昭和四十八年度卒
大塚 正志

平成二十六年四月一日付で、芳賀地区広域行政事務組合消防本部の消防長を拝命いたしました。

今日まで地域の皆さまの温かいご理解とご協力をいただきまして、二〇〇名の署員とともに、芳賀郡市町民十四万八千有余の生命・身体・財産を守り、安全・安心確保のために、全力で取り組んでいるとさせていただきます。

しかしながら、今日の消防行政を取り巻く環境は、複雑多様化・大規模化し、テロ対策や新型インフルエンザ、更には、エボラ出血熱などの感染防止対策など、新たな災

害に対する対応が求められております。特に救急業務につきましては、より質の高い救急業務が求められており、すでに皆さまご承知のことと思いますが、ドクターカーが自治医大病院を基地として、ドクターヘリが獨協医科大学を基地として、それぞれ運用開始に伴い、医師による速やかな救命医療が可能となりました。

当消防本部では、一人でも救える命を救うために迅速な救急処置をして、より一層の救急救命率の向上を図って参りたいと思います。

また、近年の異常気象

によります自然災害が後を絶えず、二月には関東地方を襲いました大雪による農作物やビニールハウス等の被害、八月には本県で三年続けて発生いたした大規模な豪雨により甚大な被害がもたらされました。全国的には、八月の広島市の集中豪雨により土砂災害、九月には御獄山の突然の噴火と、多くの尊い人命が失われました。さらには、首都直下型地震や南海トラフ巨大地震も引き続き大きな懸念となっているところでございます。これらの多種多様な災害に、これからの地域住民の期待と信頼に応えられるよう全力で消防行政を展開して参りたいと思います。

叙勲おめでとういっしょにいきます

農林業センサス調査員としての思い出



昭和二十八年年度卒 渡辺 恒男

私は昭和二十九年三月

に真岡農業高校を卒業致

しました。卒業してから

すでに六十年経過して居

り、この六十年間を振り返

返って見て色々な事が思

いだされます。なかでも

農林業センサス調査員と

して長い間統計調査に協

力して参りました。この

度はこの功績が認められ

平成二十六年春の褒章に

当たり藍綬褒章を受章致

しました。平成二十六年

四月二十九日付で発令され

まさか私が褒章をいただ

けるとは夢にも思ってい

なかったもので、本当に驚

きと感激でいっぱいです

た。

そして褒章伝達式が平

成二十六年五月十六日農

林水産省の七階講堂にて

行われ、私と妻一人で行

席致しました。式場には

江藤農林水産大臣、林野

庁長官、大臣官房長の他

多数の来賓の方が出席さ

れ、その前で一人一人名

前が読み上げられ、起立

して章記及び褒章をいた

だきました。十一時三十

分に伝達式が終わり、別

室で会食を取り、十二時

三十分、受賞者と配偶者

は農林水産省が用意した

バスで皇居に参りました。

拝謁は宮殿の「春秋の間」

で行われ、天皇陛下とお

会いて天皇陛下のやさ

しいお祝いの御挨拶をい

ただき、まさに身に余る

光栄と感激で言葉に表せ

ない様な雰囲気でした。

拝謁が終わって、受賞者及

び配偶者が宮殿にて記念

集合写真を撮り、皇居で

の行事が終了し、再びバ

スで農林水産省に戻り陸

下からの御記念品をいた

だき、午後二時四十分頃

解散致しました。

そして、私ですが、四

十九年間農林業センサス

調査員として国勢調査、

農業センサス調査、その

他の調査に協力して参り

ました。これらの調査は

行政の基礎資料となりま

すので正確な統計調査が

求められて居ります。し

かし現在は正確な統計調

査が出来にくい環境にな

りつつあります。いろい

ろな統計調査が税金に関

係するのではないかと思

う人も居ます。又家庭、

家族の事は他人に知られ

たくないと思う人も居り

ます。しかし、統計調査

の結果は税金と関係はな

い、又調査結果は他人に

は絶対知らせることはな

い、統計法があつて統計

以外に利用してはいけな

いと定められて居ります。

この様な事を調査区域の

人に細かく説明しながら

正確な統計調査に努力し

て来ましたが、こうした統

計の功績が認められ褒章

になったのではないかと

思います。今後はこの褒

章に恥じない様に、いろ

いろな事に協力して参り

たいと思います。

優良同窓生紹介

我が家の農業



昭和五十八年度卒業 小島 純

昭和五十八年に本校畜産科を卒業し、県立宇都宮農業高校農業特別専攻科に進学しました。

当時の我が家の農業経営は、水稲一・五ヘクタール畑作七十アールと牛繁殖十頭で、私達の集落五軒で営農集団を作っていました。共同利用の機械で、農作業の受託等を行

った。コスト削減収入増加に努めていました。和牛繁殖はそれぞれ個体の年一産を目標に、水稲の稲ワラ利用、飼料用トウモロコシ作付などコストをおさえ牛糞は堆肥として畑作の玉ネギの品質向上に利用し、水稲中心で和牛繁殖畑作を取り入れた経営でした。今の土地利

用の経営に移行してきてのは、平成九年から五条刈コンバインの導入で、稲刈の作業受託を始めたのがきっかけです。丁寧な作業を心がけるよう務め作業面積も少しずつ増えてきました。それと同時に、水田の受託も増えてきた為、休耕面積の増加に対応する為小麦の作付を始め、平成十九年から休耕田、畑地への麦と大豆の二毛作を始めました。大豆は栃木県内の食品メーカーと契約栽培の納豆小粒で連作に強い反面、無農薬栽培での契約

でもあったため、カルチが

け培土、虫による被害等とても大変ですが、無事収穫を迎えられた時は感無量です。

平成二十年までは大豆の刈取は委託して麦の刈取も普通型コンバインでの作業でした。翌年には麦の作付面積も十五ヘクタールを越え、大豆の作付も十ヘクタールを予定しているのと、国のリース支援事業を利用し汎用コンバインを購入する事にしました。汎用コンバインの購入により休耕田、畑地の作業受託による規模拡大に、対応することが出来ました。

この頃には、麦と玉ネギの収穫がかなってくため、玉ネギの作付をやめ、また両親が体調を崩したので、和牛の繁殖もやめることにしました。私の住む二宮地区は、いちごの産地であり、出荷の長期化のため春と秋の水田作業がかなってくるため、水田の受託面

積が毎年増えています。現在の経営内容は、水稲十六ヘクタール、飼料米四ヘクタール、小麦と大麦で十九ヘクタール、大豆七ヘクタールで水稲では、鉄コーティング直播栽培を取り入れ納得の出来ではありませんでした。直播栽培の技術を確実なものに移行していきたいと思っています。

今年、私は、心筋梗塞になり、家族をはじめ地域のみなさんにご心配をかけてしまいました。たくさんの方に支えられたのと幸い本校卒業の長男と農業経営をしていましたので、長男が中心となり農作業を進めていくことが出来ました。

本当にお世話になった方々へのお礼と、地域の担い手として農地を守っていくこととお返しが出来たらと思います。

最後に優良同窓生表彰ありがとうございます。心より御礼申し上げます。

また、近年の異常気象



平成二十六年五月十六日農林水産省の七階講堂にて行われ、私と妻一人で行席致しました。式場には江藤農林水産大臣、林野庁長官、大臣官房長の他に多数の来賓の方が出席され、その前で一人一人名前が読み上げられ、起立して章記及び褒章をいただきました。十一時三十分、受賞者と配偶者は農林水産省が用意したバスで皇居に参りました。拝謁は宮殿の「春秋の間」で行われ、天皇陛下とお会いして天皇陛下のやさしいお祝いの御挨拶をいただき、まさに身に余る光栄と感激で言葉に表せない様な雰囲気でした。拝謁が終わって、受賞者及び配偶者が宮殿にて記念集合写真を撮り、皇居での行事が終了し、再びバスで農林水産省に戻り陸下からの御記念品をいただき、午後二時四十分頃解散致しました。



小島 純

各科の近況

生物生産科

科長 北 見 雅 孝

日頃より生物生産科の活動につきまして、ご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

例年、好評を頂いております農場即売会をはじめ、「おしゃらくマルシェ」での販売などでは、「毎回楽しみにしている。」

「三十年振りに母校に来ることが出来た。」など、同窓生のお声を直に聞くことが出来ました。その一言で在校生達は本校の歴史と素晴らしさを感じていることと思います。

また、九月に行われております職場体験事業・インターンシップでは、今年度は計二十四件の農家・事業所様にお世話になりました。

今年度も学科目標「栽培や飼育を通し農業経営や地域産業で活躍する人材育成」を掲げ、普通科目から農業の実践学習、資格取得などに取り組んで参りました。

今年度の主だった物を紹介しますと、作物部が中心になって行ってきた二宮尊徳・桜町陣屋跡保存会の活動、「尊徳全国サミット」が十一月二十八、二十九日と真岡



スカイベリー栽培



二宮尊徳・桜町陣屋跡米作り

市内及び市民会館で行われました。真岡木綿の着物姿に扮した「おしゃら娘」三人の紹介で、これまでの尊徳田での活動を田植えから稲刈りまでをスクリーンと寸劇にて発表させていただきました。

けます。

学科内では、減農薬米の栽培、花壇やねりんピックへの草花栽培応援なども行いました。畜産部では受精卵移植での和牛産出、雌雄別産出などにも着手しております。

会場の皆様からは笑い声と共に拍手を頂き、関係者の皆様から嬉しい言葉をかけてもらい楽屋を降りた生徒達も大変喜んでおりました。年間通しお世話になっている保存会の方々に感謝申し上げます。

今後とも同窓生、地域の皆様のご指導を賜りながら取り組んで参ります。

農業機械科

科長 藤 田 将 輝

農業機械科の生徒活動状況と地域に根差した人材育成を目標に実践している学科の取り組みについて、紹介します。

今年度の生徒活動状況について、報告します。

①平成二十六年 四月二十六日(出)、東京都江東区にある東京ビックサイトで開催された「第五回関東甲信越高校生溶接コンクール」に、栃木県代表として参加した。結果は八位入賞となり、本人としては満足のいく結果となった。

②平成二十六年 六月二十日(出)に栃木教育会館で開催された「平成二十六年度栃木県学校農業クラブ連盟各種発表大会(区分:ロジエクト発表(区分:環境))」において、農業機械科三年 大森翼(他九名)が「電動ドリルを用いたドリル部の移植アダプターの製作」園芸用掘削ドリル」という研究内容で最優秀賞を獲得した。本研究は、市貝町芝桜公園の植栽ボランティアに参加した時、植付作業が非常に大変であった。そこで、過酷な作業を行えるような『もの』がで

きないか考え、園芸用掘削ドリル製作を検討・実施した発表である。土日も返上して、研究開発に取り組んだ成果が最優秀賞という結果となってよかった。八月に開催される「第六十五回関東地区

学校農業クラブ連盟大会(東京大会)」に出場することになった。

③平成二十六年六月二十八日(出)Honda エコマイレッジ チャレンジ 2014 第六回もてぎ大会に参加した。大会前の事前審査を行っているとき、バッテリーの不具合を感じた。事前審査は無事終了したが、もう一度ビットに戻ってエンジン・バッテリー等の確認をしたところ、バッテリーが破損してバッテリー液が漏れていることがわかった。審査員の方に報告したところ、棄権というところになった。来年は無事、完走できるようにしたい。

④平成二十六年十一月八日(出)に栃木県立県央産業技術専門校で開催された「とちぎものづくり技能競技大会 溶接の部(第五回栃木県高等学校溶接コンクール)」において、



Honda エコマイレッジ チャレンジ参加



溶接コンクール関東大会出場

農業機械科二年 高橋秀一が四位(技能)となった。昨年まで三連覇を受けていたプレッシャーを受けて大会に臨んだ。

緊張しながら大会に臨んだ。結果は出なかったが、この経験を生かして、研究発表やボランティア活動等に積極的に取り組んでいきたい。さらに、来年度は再び優勝旗を本校に持ち帰らせたいと後輩の指導に当たっている。

⑤平成二十六年七月二十八日(出)に栃木県庁で開催された「平成二十六年度起業家精神育成事業コンペティション」において、農業機械科二年 藤沼岳志、相田統哉、青木敬寛、上野英明、小池正悟、助川晴哉、早乙女勇輝、高橋慎哉、高橋秀一、高原一樹、中谷将輝が「自動灌水器付きプラントの開発」という題目で発表し、みごとコンペを勝ち抜いて最終発表

へと進出した。地域に根差した人材育成を目標に実践している学科の取り組みについて、

①改良したイノシシ駆除用檻の設置
宇都宮大学 農場(真岡市下籠谷)にイノシシが現れ、駆除用檻を設置することになった。真岡市や猟友会と連携して鉄製の箱を制作して設置している。

②真岡鉄道各駅構内のフラスコスタンド製作と設置
本校生徒が通学に利用している真岡鉄道各駅の清掃活動を年二回行っている。駅構内の美化活動も行おうと、各駅に合ったデザインを施してフラスコスタンドを製作して設置する予定をしている。以上のように農業機械科で習得した技術を発展させて、研究を行っている。今後も地域貢献できるように取り組んでいきたい。

総合ビジネス科

科長 中 島 篤 志

総合ビジネス科は、ビジネス業務に必要なスキルを身につけるため、今年度も様々な取り組みを行った。

一学期は、栃木県生徒商業研究発表会に参加し、「アイデア商品の研究」を発表した。これまで課題研究の授業において、数グループに分かれそれぞれ商品開発を行い、今回はそのうちの二商品について発表した。また、三学期商業機関見学では、造幣局とソラマチを見学し、日本を代表する重要な機関や商業施設を間近で見ることができ、生徒にとっては大変有意義なものとなった。

一学期のインターンシップでは、二学年が各受け入れ先でそれぞれの業務や、社会人としての心得など様々なことを学ぶ機会を作っていた。北陵祭総合ビジネス科の発表展示では、マーケティングの研究、知的財産権の研究分野を発表した。両分野とも内容が広く、各研究班に分かれ、自分たちの研究分野を様々な方法で調べたうえで来場者に分かりやすく、なおかつ工夫を凝らし提示を行った。

二学年学校見学・企業見学では、国際情報ビジネス専門学校での模擬授業体験と、花王株式会社栃木工場の見学を見ていただいた。特に工場見学では、もともと身近である地元企業なのだが、

工場内の様子や管理体制など、知らないことが意外と多く、地元企業を知る上でも大変参考になるものであった。

今年度は、生徒、教師ともに、これまで以上に資格取得に対する意識を高めるという目標を掲げ、科全体でそのための指導を実施した。具体的には、日商簿記検定試験に学年全員受験させるなど、新しく挑戦する検定を組み入れた。これまでの定期課外授業に加え、検定前集中課外や長期休業中の課外授業を充実させ、一人でも多く合格者を出すための取り組みを行った。その結果、合格者数が増加した。これは、授業全体に活気が出るなど、生徒一人一人の臨む姿勢に積極性が生まれた。これらの取り組みをさらに発展させるために、これからも総合ビジネス科一丸となって指導に臨んでいきたい。



キャリア形成支援事業での勉強会

食品科学科

科長 大塚 昌 法

食品科学科では、「食品関連企業への従事者を養成する学科」として、今年度も農産物の加工や製造技術及び販売指導を重点目標に取り組んだ。

パン類では、食パン・フランスパン・クロワッサン・メロンパン・クリームパン等を、めん類では、そば・うどん・パスタ・中華めんを、ジャム類では、イチゴジャム・ブルーベリージャムと昨年製造できなかったリンゴジャムを、肉加工品では、ベーコン・ウインナーソーセージの製造を行った。また、スポンジケーキやそれを使ったデコレーション実習も行った。

昨年は台風の影響で中止になった北陵祭の一般公開でも沢山のお客様に加工品を買って頂いたり、農場祭においても例年にも増して盛況でお客様の長蛇の列ができるほどであった。

インターンシップ推進事業は、勤労意識の涵養あるいは食品関連産業技術者の育成をねらいに今年も各事業先にお世話になり実施することができた。真岡工業団地及び清原工業団地の食品関連企業、真岡市内及びインターパーク内店舗、真岡市内菓子店、各スーパーの総菜店等で生徒達は体験実習を行った。受入先は、

今年度真岡市内のパン屋及び食品関連企業、宇都宮市内のパン屋及び製菓店など五社ほど新規開拓することができた。

一年生の先進地見学は、今年度はトモエ乳業（常陸大宮市）、キューピー五霞工場（茨城・五霞）の二社を見学研修してきた。例年、実施されてきた民間講師招聘事業は、キャリア形成支援事業に名称が変わり、二年生がTBC調理専門学校宇都宮校の岡本先生及び現役生徒らによる洋食実習の指導を受けた。

また、新たに今年度より専門学校見学研修会を実施し、三年生が専門学校の施設や授業を見学したり、洋食やスウィーツづくりを体験してきた。各資格取得の指導は、食生活アドバイザー二級、ボイラー取扱技能講習、危険物取扱者資格内種・乙種、ワープロ検定等にチャレンジし、大きな成果を上げた。

農業クラブの活動では、意見発表では文化生活の部門に出場し優秀賞を受賞した。また、プロジェクト発表においては、同じく文化生活の部門に出場し、最優秀賞を受賞した。これは、食品科学科として十数年ぶりの快挙であった。関東大会では、惜しくも優秀賞に終わっ

た。農業クラブ全国大会（沖縄大会）では、農業鑑定競技の食品科学コースで優秀賞を受賞した。その他として、学科の有志生徒で構成された食品科学同好会の活動の一部を報告したい。

まずは、食の甲子園協会の特別企画として開催された「あまいもん商品開発部」に、エントリーし、全国の応募の中から優秀校三校に選ばれた。商品名は『いちごティラミス大福』で、地元食材をアピールするものであった。受賞の特典として、

商品の製品化に向けての勉強会が不二家の埼玉工場で行われ、いろいろな技術指導やアドバイスを受けてきた。また、北陵高と真岡工業高、中華料理屋「文珍楼」がコラボレーションをして作り上げた『いちご飯バーガー』は真岡の井頭公園で開催された「とちぎ元氣グルメまつり」において、見事グランプリを受賞した。

『いちご飯バーガー』の開発には、五ヶ月前から取り組み、何度も検討会や試作会及び試食会を繰り返して、商品化にこぎつけた。十月にはとちぎテレビの取材を受けた。リポーターはガッツ石松さんで、「満喫！とちぎ日和」という番組で、その取り組みや商品が紹介

された。また、「とちぎ元氣グルメまつり」に先だって、「もおか木綿まつり」のイベントに参加し、限定三百食を売り上げた。本番の「とちぎ元氣グルメまつり」では、二日間とも悪天候の中、沢山のお客様に並んで頂き、投票をして頂いた。投票結果、二位に大差をつけ、グランプリを獲得することが出来た。これも、地元の方の応援や関係者の支えがあつてこそだが、それにしても北陵高生と真岡工業高生は最後までよく頑張った。その後、真岡の「大産業祭」のイベントにも参加するなど大活躍だった。十二月には真岡市長への表敬訪問をおこない、市長をはじめ、いろいろな方からお褒めや労いの言葉を頂いた。

このように学科の生徒達は、積極的に地域連携と地域貢献を目標に頑張っている。



とちぎテレビ取材（リポーター ガッツ石松さん）



イチゴジャムの製造実習



メロンパンの製造実習

教養福祉科

科長 大森 小百合

教養福祉科では、本年度も校外学習や外部講師講話など多くの行事に取り組んだ。一年生では、手話講習会、大学の先生や視覚障害者による講話、高齢者施設で活躍する卒業生の講話では、仕事の楽しさや、やり甲斐を伝えてもらうことができた。

二年生では、障害者施設特別養護老人ホームの見学・講話。認知症サポーター養成講習会。消防署の方による救命救急講習会等を通してさらに専門的な見識を深めることができた。三年生では、社会福祉協議会や地域包括支援センターの方の講話、絵画教室、東京で開催された国際福祉機器展の見学等を通して、就職や進学を身近に控え生徒それぞれが感銘を受け、未来に繋げようとする意識がみえた。

「介護実習」の科目はすべて校外での実習になる。一年生でデイサービスセンター、グループホームで十三日間。二年生で高齢者施設、訪問介護実習、障害者施設の十七日間。三年生は高齢者施設に二十五日間。三年間で五十五日間の現場実習と

なる。施設の利用者や指導者の方から多くの事を学んだことで、自分の進路に繋げる生徒も多かった。

教養福祉科は、平成二十一年度より国家資格である「介護福祉士」の養成校に認定されている。そのため、今年の二年生から、「医療的ケア」の分野が一位増加履修になり、痰の吸引や経管栄養等の演習を授業の中で実施することとなった。

これは、少子高齢化に伴い、医療ニーズの高い高齢者の増加が見込まれること、より安全なケアを介護現場の実情に合わせて「介護福祉士」が日常の医療ケアを実施する必要性が高まったことによる。専門科目の授業時数（一八五時間）を確保するため、七時間目や始業式・終業式後の授業、夏休みや冬休み等の長期休業中にも授業を実施している。資格取得のための授業時数確保は避けられないが、高校生として様々なことを体験して欲しいという思いもあり、調整が難しい。しかし、高校の福祉科で、この「介護福祉士」の受験資

格が取得できるのは養成校だけである。短大や専門学校でも介護福祉士の資格取得はできるが、本校の教養福祉科に入学し、最短の十八歳で国家試験を受験し取得できたというプライドを持って、是非国家資格を自分のものにして欲しい。

毎年一月の第四週の日曜日が「介護福祉士」の国家試験になっている。平成二十三年度・二十四年度・二十五年度と三年連続で合格率が100%を達成できた。今年も家族や地域の方々に支えられてこまできた。この先は、地域社会に貢献できる心豊かな人として活躍して欲しいと願っている。



入浴介護実習



医療的ケア実習

三団体の活動内容

生徒会活動報告

顧問 谷 中 裕 貴

今年度の主な取り組みについて報告します。四月の益子特別支援学校との交流会では、昨年度までの畜舎でのウシやブタの見学、イチゴの収穫・試食という流れから、今年度はどんぐりトトロ作りとイチゴの収穫・試食に変更しました。どんぐりトトロ作りでは役員が、どんぐりの調達や会場の準備などを中心に取り組みました。生徒総会では、それぞれの係りごとに分かれて的確に会務や会計について伝えていました。六月の体育祭では学科対

抗の大縄跳び、各種競技を今年度も実施しました。役員は大縄の回数チェックやトーナメント表の準備、閉会式を担当しました。自分の出場種目にも積極的に参加して盛り上げていました。

今年度から生徒会による挨拶運動をPTAや生徒指導部と共に、四月、九月、一月にそれぞれ一週間の期間で実施しました。声をかけると、多くの生徒は元気に挨拶を返していました。挨拶運動によって生徒の挨拶習慣が今まで以上に向上する

ことができ、学校行事も成功させることができました。

三学期から新役員に引き継がれますが、今年度の反省点を活かして今後の学校行事をはじめ様々な活動に取り組んでいきたいと思います。

今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

今年度から生徒会による挨拶運動をPTAや生徒指導部と共に、四月、九月、一月にそれぞれ一週間の期間で実施しました。声をかけると、多くの生徒は元気に挨拶を返していました。挨拶運動によって生徒の挨拶習慣が今まで以上に向上する

生徒会長として

三年三組 中 川 晴 貴

私が、生徒会長として活動して、早一年がたちました。初めは、この大役を果たすことができるのか、不安でいっぱいでしたが、諸先生方、生徒会役員の皆様方の力を借りながら、この一年間務めることができました。

生徒会で過ごした時間はとても充実していて、私にとって、有意義なものでした。今では、その経験が確実に自分の中で力に変わってきているのを感じています。

生徒会としての活動は、予餞会から始まり、体育祭、北陵祭など様々な行事の運営を行ってきました。新会長としての初めての活動となる予餞会では、他に農業クラブ・家庭クラブの皆様方と協力して、先輩方のスライドショーの制作を行いました。初めてながらも、皆で意見を出し合い試行錯誤しながら頑張りました。私は生徒会長として、皆をまとめるだけでなく、私自身も一緒に頑張るよ

う心掛け、たくさんの人とコミュニケーションをとるようにしました。そのため、生徒会のメンバーも積極的に話しかけてくれ、多くの意見を出してくれました。

だんだんと皆が自分の意見を出すようになり、北陵祭では皆がやる気に満ちていました。昨年の北陵祭が台風の影響で一般公開が中止になり、今年こそはという気持ちでより一層やる気に満ち、皆が一丸となって頑張

ました。そのおかげで、例年にも劣らない北陵祭になったと思っています。

他にも生徒会長として校外活動も行ってきました。

そこで他校の生徒や一般の方々などの交流があり、意見交換などを行ったりして自分を人間として大きく成長することができました。

私が生徒会長として今まで活動できたのも、先生方のご指導やサポート、生徒会メンバーの支えが



学校祭（ヤキトリ屋さん）



学校祭（駄菓子屋さん）

家庭クラブ活動報告

顧問 沼 田 美 季

学校家庭クラブは、家庭科を学習する高校生を会員とし、家庭科の学習を通して、学校内や地域の生活に目を向け、問題を発見し、その解決の方法を探り、生活の改善、向上を目指す実践的な学習活動をおこなう組織です。「創造・愛情・奉仕・勤労」の精神を柱とし、本校では教養福祉科が福祉教育の中で家庭クラブ活動を展開しているところに特色があります。

本校の家庭クラブは、奉仕活動、交流活動、研究活動に力を入れており、充実した活動をおこなっています。

奉仕活動としてペットボトルキャップの回収を

おこなっており、家庭クラブ活動の中心となっています。この活動は、ペットボトルキャップを集めることによって、発展途上国の子どもたちにワクチンを届けるボランティア活動です。役員の呼びかけによって生徒たちへの協力の輪が広がり、多くのペットボトルキャップが集まっています。回収された多くのペットボトルキャップを確認することにより、役員もうれしさとやりがいを実感しています。また、初めは福祉科だけの活動でしたが、新たに自動販売機付近と職員室にも回収ボックスを設置させていただき、今では学校全体の活

家庭クラブ会長として

三年五組 稲 川 佳 鈴

「家庭クラブ会長」というバトンを受け継ぎ、先輩の背中を見ていた私が会長として活動し、一年が経ちました。この一年間を振り返ってみると、さまざまな面で皆さんに支えていただきながら、たくさんの方の活動をおこなうことができたと思います。

また、今年度は栃木県高等学校家庭クラブ連盟の会計としてさまざまな会議に参加し、家庭クラブ役員としての責任ややりがいを感じながら活動することができたと思います。

家庭クラブではさまざまな活動をおこなっていますが、その中でも特に力を入れておこなってきたのはペットボトルキャップ回収です。この活動は、ペットボトルキャップを

動としてさらにその輪が広がっています。今後は各教室への回収ボックスの設置を目指したいと思います。

交流活動では、調理講習会をおこないました。クリスマスにはデコレーションケーキを作って、国家試験の受験を控えた教養福祉科三年生にプレゼントし、後輩からエールを送りました。調理や会食をしながら学年の絆を越えて交流をおこなうことができ、有意義なひとときとなりました。

研究活動である校内意見発表会では、各学年の代表者による意見発表、二年生のエプロンシアター、手話、三年生のパワーポイントによる研究発表などがおこなわれ、他者の意見や授業の成果を知る



デコレーションケーキ作り

集め、それをワクチン寄贈団体に寄付し、発展途上国へワクチンとして届けるというものです。限られた資源を有効に活用し、約八百個のキャップが一人分のワクチンへと変わり、命を救うことができます。この活動に私達が携わっていることを誇りに思い活動してきました。

数年前から、家庭クラブ員だけでなく、全校生徒へのペットボトルキャップ回収を呼びかけ、今年度もたくさんの方のペットボトルキャップを回収することができました。協力してくださった先生方、生徒のみなさん、ありがとうございました。

最後になりますが、先生方をはじめとする家庭クラブ役員、家庭クラブ員の方々が、温かいご支援ありがとうございました。今後の家庭クラブ活動が、真岡北陵高校のますますの発展へと結びつきますよう祈念しております。三年間ありがとうございました。

農業クラブ活動報告

顧問 小 菅 育 子

今年度の農業クラブの主な取り組みについて報告いたします。

今年度の栃木県学校農業クラブ連盟各種発表大会は、六月に宇都宮市教育会館で開催されました。各校から校内選考を勝ち抜いた代表が意見発表およびプロジェクト発表を行いました。本校からは、意見発表の部では区分「環境」において農業機械科二年の早乙女勇輝さんが優秀賞を獲得いたしました。また、プロジェクト発表においては、区分「環境」において農業機械科三年大森翼さん他九名が、区分「文化・生活」において食品科学科三年鈴木佳奈さん他五名が最優秀賞に輝き、八月に東京農業大学で行われた関東大会への出場を果たしました。

休みに県連盟主催の講習会に参加したり、毎日遅くまで残って学習し、まとめノートや冊子も作り上げるなど、努力を積み重ねて挑みました。本番では日頃の学習の成果を発揮し、食品科学科三年の伊澤菜摘が食品科学科三年の伊澤菜摘が最優秀賞を獲得しました。また、競技以外の面では今年の全国大会の会場は沖縄県でしたので、大会式典やその後の県連盟主催の研修会において沖縄の文化や自然に触れることができ、大変意義のあるものとなりました。

校内行事では、十一月に収穫祭が行われました。今年は天気にも恵まれ、本校農場の水田において秋空の下、農場で収穫した野菜や米を使ってカレーライスを作り、一年間の収穫に感謝するとともに、生徒

同士が交流を深めました。カレーコンテストにおいては、一年生は初めてのことで、カレーを作るだけで精一杯の様子でしたが、二、三年生になると各クラスとも独自のアレンジを加え、その中でも特においしく作った食品科学科の三年生が最優秀賞に輝きました。

最後に、八月二十一日から二十三日にかけて、東京農業大学世田谷キャンパスで開催された日本学校農業クラブ連盟関東大会のプロジェクト発表（区分：環境）に参加し、「優秀賞」を頂くことができました。

この大会に出場することになったきっかけは、昨年農業機械科で参加したふれあい郷協議会主催の市川町シバザクラ公園の植栽ボランティアへの参加活動でした。この植栽ボランティアに参加し、この公園が芳那の水晶湖を掘削した際の残土の上で造成されたため、土質

農業クラブ会長として

三年三組 平 野 結 夏

昨年度の高野澤会長をはじめとする先輩方から、伝統ある北陵高校の農業クラブを引き継ぎ、役員十五名とともに一年間農業クラブの発展のために努めてきました。

私が会長となり、一年が経過しました。始めのうち、会長という大役を果たすことができたのか不安でした。しかし、この一年間で経験してきたことが徐々に自分の力になっていくことを感じ、私を大きく成長させてく

ました。それぞれ、夏休みに県連盟主催の講習会に参加したり、毎日遅くまで残って学習し、まとめノートや冊子も作り上げるなど、努力を積み重ねて挑みました。本番では日頃の学習の成果を発揮し、食品科学科三年の伊澤菜摘が最優秀賞を獲得しました。また、競技以外の面では今年の全国大会の会場は沖縄県でしたので、大会式典やその後の県連盟主催の研修会において沖縄の文化や自然に触れることができ、大変意義のあるものとなりました。

校内行事では、十一月に収穫祭が行われました。今年は天気にも恵まれ、本校農場の水田において秋空の下、農場で収穫した野菜や米を使ってカレーライスを作り、一年間の収穫に感謝するとともに、生徒

最後に、八月二十一日から二十三日にかけて、東京農業大学世田谷キャンパスで開催された日本学校農業クラブ連盟関東大会のプロジェクト発表（区分：環境）に参加し、「優秀賞」を頂くことができました。

この大会に出場することになったきっかけは、昨年農業機械科で参加したふれあい郷協議会主催の市川町シバザクラ公園の植栽ボランティアへの参加活動でした。この植栽ボランティアに参加し、この公園が芳那の水晶湖を掘削した際の残土の上で造成されたため、土質

私は、八月二十日から二十一日に東京農業大学世田谷キャンパスで開催された関東地区学校農業クラブ連盟大会プロジェクト発表会に出場しました。

プロジェクト発表会の区分では、食料・生産と環境、文化・生活の二つに分かれていました。私は区分は文化・生活に出場しました。その区分は文化や交流に関することや生物の活用に関するものを題目に発表するものでした。私たちのグルー

プは六人出場し、発表者レーザポインター、パソコンのスクリーンと二人ずつ分かれ発表しました。その六人は食品科学同好会に入会しているメンバーです。

私は発表者として仲間と協力しながらどうしたらインパクトがあり、印象に残る発表ができるのか試行錯誤しながら考えました。発表する題名は「地元食材を使った商品開発の研究」で地産地消と地域連携への取り組みです。私たちの発表

広く知れ渡ることをお願いしています。この一年間を振り返ってみると、後悔することと同時に、とても楽しかった記憶が蘇ってきます。失敗したことが多かった私は、皆から頼られる会長ではなかったかもしれない。私は皆さんのために活動することができていたのでしょうか。むしろ、皆さんに支えられてばかりだったように思います。副会長並びに役員の皆さん、そして顧問の先生方、一年間私と活動してくださ

ありがとうございます。皆さんの心はへし折られていたと思います。これから先、何があっても皆で支えあい、より良い農業クラブにしてください。一年間、本当にありがとうございました。

私は、八月二十日から二十一日に東京農業大学世田谷キャンパスで開催された関東地区学校農業クラブ連盟大会プロジェクト発表会に出場しました。

プロジェクト発表会の区分では、食料・生産と環境、文化・生活の二つに分かれていました。私は区分は文化・生活に出場しました。その区分は文化や交流に関することや生物の活用に関するものを題目に発表するものでした。私たちのグルー

プは六人出場し、発表者レーザポインター、パソコンのスクリーンと二人ずつ分かれ発表しました。その六人は食品科学同好会に入会しているメンバーです。

私は発表者として仲間と協力しながらどうしたらインパクトがあり、印象に残る発表ができるのか試行錯誤しながら考えました。発表する題名は「地元食材を使った商品開発の研究」で地産地消と地域連携への取り組みです。私たちの発表

最後に、課題研究や放課後遅くまで指導して頂いた農業機械科の先生に感謝すると共に一緒に研究に携わったメンバーにお礼を言いたいです。ありがとうございました。

農業クラブ関東大会出場おめでとう

関東大会に出場して（環境部門）

三年三組 大 森 翼

私達は、八月二十一日（木）から二十三日（金）にかけて東京農業大学世田谷キャンパスで開催された日本学校農業クラブ連盟関東大会のプロジェクト発表（区分：環境）に参加し、「優秀賞」を頂くことができました。

この大会に出場することになったきっかけは、昨年農業機械科で参加したふれあい郷協議会主催の市川町シバザクラ公園の植栽ボランティアへの参加活動でした。この植栽ボランティアに参加し、この公園が芳那の水晶湖を掘削した際の残土の上で造成されたため、土質

が固く、排水の悪さや乾燥によって、多くのシバザクラの株が枯れてしまっているのを知りました。そこで、ものづくりを基本とする知識や技術を習得し、機械の運転操作や機械工作・資格取得など幅広い学習に取り組んでい

ることを活かしたいと思うようになり、「広大な面積」「土壌が固い」「進まない作業」・「力が必要」と様々な状況で、子供や女性でも楽に植栽作業が行えるような「機械」を開発できないかと考えました。そして、移植用穴掘り機「園芸用掘削ドリル」の開発を目標

にして、課題研究のテーマに設定し、研究活動に取り組みました。また、このまとめた内容で栃木県学校農業クラブ連盟の県大会で最優秀賞を頂き、関東大会への出場権を得ることができました。

関東大会へ向けて、夏休みに本格的にプロジェクト発表の練習に取り組みました。発表時間の調整やパソコンでスライドのタイミングを合わせる事など大変でした。しかし、練習していくにつれて良くなっていき、達成感を感じることが多くなりました。大会前日のリハー

サルでは、発表のタイムに不安が残る中で本番に臨みました。大会は、周りの雰囲気や他校の発表に圧倒されつつ、緊張も入り混じった発表となりました。前日の不安要素であった発表のタイムも規定時間内に納まり、良い発表をすることができました。その後、閉会式が始まり表彰式の結果を待っている時は落ち着きませんでした。そして結果発表があり、「優秀賞」を頂くことができました。本当に嬉しかったです。本日に嬉しかったことを覚えておきます。私は、この経験を経て、メンバーと共に喜びを分かち合い、仲間と共に協力して物事を成し遂げる大切さを学ぶことができ、挑戦したことに自信を持つことができました。

休みに本格的にプロジェクト発表の練習に取り組みました。発表時間の調整やパソコンでスライドのタイミングを合わせる事など大変でした。しかし、練習していくにつれて良くなっていき、達成感を感じることが多くなりました。大会前日のリハー

しまいましたが、いざ自分たちの番になると緊張が入り、練習通りに発表することができました。結果は、優秀賞でしたが、仲間と協力し、助け合いながら大きなことを成し遂げられたことがとても嬉しかったです。この大会に出場したことにより、今後の自分への自信にもつながりました。

最後に放課後遅くなるまで私たちを見守り御指導いただいた顧問の先生、お世話になった地域の方々、応援してくれた家族に感謝いたします。ありがとうございました。



収穫祭でのカレー作り



日本学校農業クラブ 全国大会出場おめでとう

農業鑑定競技大会に参加して

(食品科学コース)

三年三組 伊 澤 菜 摘

私は十月二十二日から二十三日にかけて行われた第六十五回日本学校農業クラブ全国大会(沖縄大会)の農業鑑定競技に出場しました。沖縄で開催されるのは初めてという事で、その瞬間に立ち会えるなんてとても嬉しく誇りに思いました。

農業鑑定競技会は、農業の中でも九分野に区分され、それぞれの分野に関する知識や技術を競うもので鑑定・判定・計算・測定など一問二十秒(最後の二問は四十秒)で計四十問を解答する競技です。私は食品科学分野に出場しました。この大会に出場することになったきっかけは、校内の予選です。そこで良い成績を残すことができたのですが、上位者が複数居る中、その中でも代表として出場することになりました。全国大会への勉強は、夏休みから本格的に始めて毎日のように学校に来て、

見たことや聞いたことのない食品に関する名称をインターネットなどで調べたり先生に聞いてその内容を複数のノートにまとめて勉強しました。徐々に増えてゆくページ数に達成感を感じていました

ばかりでした。そして翌日の大会式典終了後引率の先生から突如、「優秀賞おめでとう」と言われた時はまずびっくりして疑いました。良く見ると食品科学の欄に丸が付いていたのでそれを見て初めて喜びました。本当に

嬉しかったです。これまで努力し積み重ねてきたものを大きな場で優秀賞という形で残すことが出来て、今後の自分への自信にもなりました。

最後に、忙しい中、時間を割き、放課後や夏休みに遅い時間まで御指導頂きました食品科学科の先生方に感謝致します。本当にありがとうございました。

私は十月二十二日から二十三日にかけて行われた第六十五回日本学校農業クラブ全国大会(沖縄大会)の農業鑑定競技に出場しました。沖縄で開催されるのは初めてという事で、その瞬間に立ち会えるなんてとても嬉しく誇りに思いました。

農業鑑定競技会は、農業の中でも九分野に区分され、それぞれの分野に関する知識や技術を競うもので鑑定・判定・計算・測定など一問二十秒(最後の二問は四十秒)で計四十問を解答する競技です。私は食品科学分野に出場しました。この大会に出場することになったきっかけは、校内の予選です。そこで良い成績を残すことができたのですが、上位者が複数居る中、その中でも代表として出場することになりました。全国大会への勉強は、夏休みから本格的に始めて毎日のように学校に来て、



農業鑑定競技に参加して (農業コース)

三年一組 森 真 欧

私は十月二十二日から二十三日にかけて行われた第六十五回日本学校農業クラブ全国大会(沖縄大会)の農業鑑定競技に出場しました。

農業鑑定競技は、農業に関する分野を区分にして、それぞれの知識と技術を競い合うもので、一問二十秒で計四十問を解答していきます。私は区分・農業に出場しました。大会に出場するきっかけとなった校内予選では良い成績を残すことができたので、代表として参加させていただきました。全国大会に向けて、夏休みから部活動の合間を使い少しずつ勉強しました。その様子を振り返ると、もっと勉強しておけば良かったと思います。ノートを一から作り、自分なりに分かりやすくまとめたを行い、農業科の先生から鑑定競技のために専門書をお借りして勉強を進めました。出題範囲は広く、なかには全く知らない単語が並んでいて、インターネットで調べたりしながら少しずつ読み解いていく日々が続きました。どんな問題が出てても対応できるようにしなくては、と思い少しでも多くのことを覚えるためにノートを何度も見直し、分からないことがあったらすぐに聞いて、様々な方法で知識を深めようと頑張りました。途中であきらめ

そうになったり、勉強しにくいと思う時期もありましたが、先生や友人など多くの人に支えていただき、あと一歩、あと少しと踏ん張って、大会の日まであきらめずに勉強を進めることができました。

大会の日を迎えて、私は今まで勉強してきた全てをぶつけることができたと思います。沖縄県という初めての土地での大会で緊張もしました。しかし、それ以上に「この大会で良い結果を残したい!」という意気込みの方が大きかったです。残念ながら、成果を残すことはできませんでしたが、夏休みからずっと勉強

農業鑑定競技会に参加して (農業機械コース)

三年二組 市 川 直 希

私は十月二十二日から二十三日にかけて行われた第六十五回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技に出場しました。

農業鑑定競技は、農業の中でも九分野に区分され、それぞれの分野に関する知識や技術を競うもので鑑定・判定・計算・測定など一問二十秒の質問を解答する競技です。私は、農業機械分野に出場しました。この大会に出場することになった

きっかけは、校内の予選です。そこで良い成績を残すことができたので、先生から声をかけていただき出場することになりました。全国大会への勉強は、夏休みから本格的に始めて、毎日のように学校にきて、見たことや聞いたことがない機械に関する名称などをインターネットなどで調べたり、先生に聞いてその内容をノートにまとめて勉強しました。徐々に増えて

てきたことは無駄にならなかったかもしれません。今回、学んだことは全て私の知識として、今後どこかで活かせる日が来ると思います。

私は多くの人に支えていただき、全国大会とい



最後に、忙しい中、時間をさいて、放課後や休みの日までご指導いただきました先生方に感謝いたします。ありがとうございました。



特別活動記録(努力の結晶)

長崎国体に参加して

三年一組 折原 梨花

私は、十月十八日から二十一日にかけて長崎県長崎市で行われた第六十九回国民体育大会「長崎がんばらば国体」ライフル射撃競技会のチーム・ライフル少年女子立射四十発競技と立射二〇発競技に出場しました。大会成績は、両競技とも優勝し二冠を達成することができました。この国民体育大会は、都道府県の代表選手が各ブロックの予選会を勝ち抜き、上位の決められた出場枠に残った選手が出場できる大会です。私は、関東ブロックの予選会で同競技三位

に入賞し、国体出場の切符を手に入れることができました。国体の出場が決まり、私は大会に参加することができました。強化練習として、静岡県藤枝市の藤枝射撃場で合宿を行った際も自己新を撃つなど、国体に向けて自信を付けてきました。国体の目標は「結果を残すこと」でした。これは、「県予選で負けてしまった仲間達の為にも恥ずかしい結果を持ち帰ることはできない」という思いが非常に大きかったからです。大会会場は、今

まで経験した会場の雰囲気とは違う感覚に襲われました。緊張や不安が押し寄せ責任という思いが一層深まりました。しかし、そんな私の元に届いた手紙がありました。送り主は、今までライバルとして戦い、また団体を一緒に組んだ仲間からの手紙でした。私は、その手紙で「戦っているのは私だけじゃない」と強い気持ちを取り戻すことができました。仲間が私の背中を押してくれたかと思いましたが、大会一日目は四〇発競技を行い、一日空けて大会二日目に二〇発競技を行いました。まずは、四〇発競技です。四〇発競技の時に立てた目標は、「決勝に残ること」でした。射座入りの時、私の周りに先輩や仲間達が集まって、励ましの言葉をかけ続けてくれました。先輩のアドバイスのおかげで、一射群目の結果を気にすることなく撃つことができました。結果は二位と約一点差で、予選を一位で通過し決勝戦に残ることができました。決勝戦での目標は「三位以内に入る」というものでした。特に撃っている時に私の自信となっていたのは、予選一位通過という結果でした。決勝戦に残っている選手の中で、一番点数が高いというところが自信になり、自分の射撃を忘れることなく競技に集中できたのだと思います。最終的に二位と

ライフル射撃部

約二点差をつけて優勝することができました。続いて、二〇発競技です。二〇発競技の時に立てた目標は、「撃ちきる」というものでした。この目標を立てたことにより、四〇発競技の優勝をその時だけ忘れることができ、緊張に押しつぶされることなく、自分の計画通りに撃つことができました。その結果、二位と同点でしたが、カウントバックのルールで最終シリーズの点数が二位の選手より高かったため、大会新記録で優勝することができました。そして、この結果により栃木県として初の少年女子チーム・ライフル種目で二冠を達成することができ、本当に嬉しかったです。また、真岡北陵射撃部の教え通り「粘る射撃」をすることができたこと、国体という大きな舞台で結果を残すことができたことは本当に良かったことです。この時のことは一生忘れることはないと思います。大会が終わって、先輩達が築き上げて達成してきたことを誇らしげに思いました。私も先輩に誇らしげに思ってもらえるような先輩に近づけたのではないかと今では思っています。これらの結果を踏まえて、私が後輩に伝えたいことは「信じる心」です。自分が今までやってきたことを信じて、私は大会に臨みました。私は三年

生になるまで、これといった大きな結果を残すことはありませんでした。しかし、このような結果を残せたのは仲間を信じて、今までやってきた練習や経験を信じていることができたからです。何事も自信を持って取り組み、仲間

に支えられた私の部活生活は最高に充実したものでした。



第六十九回国民体育大会に出場して

三年二組 海賀 竜之介

私は今回、十月十八日から二十一日にかけて、長崎県長崎市で行われた第六十九回国民体育大会「長崎がんばらば国体」ライフル射撃競技会のデジタル・ピストル少年男子立射四〇発競技に出場しました。この国民体育大会は、都道府県の代表選手が各ブロックの予選会を勝ち抜き、各種目の上位の決められた枠に入れた選手が出場することができます。大会です。私は、この予選会でブロック選手の中で三位に入賞することができ、国民体育大会への出場権を得ることができました。国体の本大会に出場できると知った時はとても嬉しかった

習を行いました。そのおかげで、良い練習ができて、自分自身に自信を持つことができました。国体出場前日は、友達や後輩から応援の言葉をもらい、励みになりました。長崎県に到着し、会場では公式練習を行いました。いつも通りの射撃をするのができ、また今回は二回公開練習を行うことができたので、本戦への自信となりました。本戦当日、国体会場は今までになく、観客がとて多く、会場の雰囲気だけでプレッシャーが押し寄せる感じがしました。本戦直前まで緊張と不安でいっぱいでしたが、先輩や友達から励ましの声や応援で支えてくれたおかげで、気持ちを整えることができました。「やってやる！」という意気込みで本戦を迎えることができました。シリーズ前半は、いつも通りの調子で撃つことができ、「このまま行ける」と思いました。しかし、後半になるにつれて調子を崩し、大きな外しを撃ってしまいました。「切り替えよう」と改めて気持ちを立て直し、何とか持ちこたえ最後まで撃ちることができました。本戦の結果は、四位で決勝戦【ファイナル】への出場権を得ました。決勝戦は、本戦で上位八位までの選手が出場できる競技です。第一ステージと第二ステージに分かれており、第一ステージは三発を二シリーズ撃ち合計の得点を出し、第二ステージは二発ずつ撃ち第一ステージの合計点を足して

点数が一番低い選手から脱落していくルールです。優勝する為には第一・第二ステージ合わせて二〇発撃ちきらないといけません。決勝が始まり、試射の時間にある程度調整はできました。第一ステージは粘って撃ったものの、暫定八位で第一ステージを終えました。「気持ちを入れ替えて撃とう」と自分に言い聞かせ、第二ステージに挑みました。結果は、第二ステージは二発で終わってしまい、八人中八位という結果になってしまいました。とても悔しい思いをしました。でも悔しい思いをし、入賞をする」という目標は達成することができました。今回、国体に出場しいろいろな経験や射撃の楽しさを改めて知ることができ、国体という大きな舞台で競技ができたことを誇りに思いました。私は、今後も射撃を続けようと考えているので、また国体に出場して今回以上の結果を残せるように頑張りたいと思います。



第六十九回国民体育大会

三年三組 里川 日向子

私は、十月十八日から二十一日にかけて、長崎県長崎市で行われた第六十九回国民体育大会「長崎がんばらば国体」ライフル射撃競技会に、エア・ライフル少年女子立射四〇発競技に出場しました。この大会は、都道府県の代表選手が各ブロックの予選会を勝ち抜き、出場する大会です。私は、ブロックの中でも強豪選手が集まる関東地区の予選会に出場し、二位に入賞することができました。そして、国体への出場権を獲得してとても嬉しかったのを覚えています。昨年も、この予選会にブロック選手として出場した際は国体出場権を獲得することが叶わず悔しい思いをしました。そのため、「今年こそは！」と気持ちを引き締めて臨み、出場権を獲得できた時はより嬉しかったです。国体までの約一ヶ月間は大会に行きたくて一日一日が遅く感じました。その間に進学に向けての準備で忙しなくなり、本射に体の一週間前に準備が終わり、練習に集中することができました。静岡県

で強化合宿やファイナル練習などの強化練習を行いました。改めて自信を持ち、大会に出場する意欲が高くなりました。準備を整え、長崎県に出発しました。九州地方にきたのは、初めてで体調を崩さないか心配でしたが、宿泊場所のベッドで良く眠れたので早い段階で長崎県の土地に対応することができました。公式練習当日は、試合の射座の他に空き射座抽選で一回当たり、十分に練習を行うことができました。このおかげで、会場の雰囲気や撃ち方などを知ることができ、自信を持って調整することができました。そして、試合当日、私が撃つ射群は午後からの日程でした。そのため、午前中は仲間の試合の応援に行き、試合の雰囲気や自分の試合で撃つ時のイメージを整え、本戦に備えました。本戦前には十五分間の試射があり、この時はリラックスして撃つことができました。しかし、本射に入り一発目を撃とうと思った瞬間に緊張が襲ってきました。第一シリーズ



ライフル射撃部

インターハイを経験して

二年二組 伊豆井 拓実

私は、七月二十八日から七月三十一日にかけて広島県安芸太田町で行われた第五十二回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会に出場し、ビーム・ライフル少年男子立射六〇発競技で三位に入賞することができました。この大会が始まる前の私は、闘争心に満ち溢れていました。今の自分の実力が全国の選手達にどれだけ通用するのか試したくてうずうずしていました。日々の練習でもほとんど自己新記録が出始めていました。先生にも「お前は全国に通用するだけの実力を持っているから大丈夫だ！」と言われて自信をつけることができました。向上心を維持したまま広島に向かうことができました。

試合前日に公開練習があり、初めての射撃場に少し緊張しながら射座に入りました。いざ、撃つてみると思うように撃つことができた、調子を整えることができました。その時に他校の選手も来ていて観察することができました。どの選手も構えがとても綺麗で点数も当たっていたので少しプレッシャーを感じましたが、同時にこの人達には絶対に負けたくないという感情が沸きました。試合当日になり、自分の出番が

暴れてこい！」と声をかけてくれました。その言葉のおかげで、不安な気持ちが闘争心に変わり、「やってやる！」と強く思うことができました。ファイナルに臨むことができました。ファイナルは、第一ステージと第二ステージに分かれており、第一ステージでは一位で通過することができました。その時は、一発も外せない気持ちで緊張をいっばいでした。続いて、第二ステージが始まり数発浅い十点を撃ってしまい、四位まで下げてしまいました。「絶対に上位に入りたい！」という強い気持ちで撃ち、深い十点を撃つことができました。順位を一つ上げることができました。しかし、順位をもう一つ上げようと思った矢先に焦って九点を撃ってしまい、三位という結果になりました。その時は、もう少し落ち着いていれば、もっと粘る射撃ができればなど様々な思いが溢れてきました。そして、ファイナルが終わった後、悔しい気持ちでいると、先輩や後輩達が駆け寄り、先陣や後輩達が駆け寄ってきてくれて「やったね！三位だよ！」とよく頑張ったな！と声をかけて励ましてくれました。その言葉でさっきまでの悔しい気持ちが達成感に変わりました。

このインターハイという大きな舞台で三位入賞したことは、自分一人では勝ち取ることはできなかったと思います。先輩・後輩の応援やサポートがあったからこそ掴み取ることができた賞だと思います。このインターハイで経験したことを今後の練習や試合に活かし、奮起していきたいと思っています。



陸上競技部

関東大会に参加して

二年四組 関上 利華

私は今年度の六月二十一日から神奈川県で行われた第六十七回関東高等学校陸上競技大会に出場しました。この大会は各都県ごとに開催される総合体育大会予選会で上位六位までに入ると出場することができ、私は一五〇メートルと、三〇〇メートルで出場権を得ることができました。

一五〇メートルは初日から予選が行われる為、前日から現地入りをして調整練習を行いました。やはり関東大会は県大会では感じたことのないような緊迫した空気が漂っていてとても緊張しましたが、少しでもベストの走りができるように集中して練習することができました。

大会当日の朝は、雨が心配されていましたが天候に恵まれ、すぐ走りやすかったです。一五〇メートルの予選は二組行われ上位五位までに入ると次の日の決勝に進むことができます。私は組の着番四位で決勝へ行くことができました。ここで六位までに入ると八月に行われるインターハイへ行くことができます。

関東大会に出場して

二年四組 上野 友 誇

私は、平成二十六年六月二十日から二十三日までの四日間に神奈川県で開催された関東高等学校陸上競技大会に出場しました。この大会は各都県ごとの総合体育大会で、各種目上位六位以内に入ると出場することができ、私は県大会で八百メートルで二位になり関東大会出場を決めました。

八百メートルは二十二日に予選、決勝が行われましたが現地に到着したのは十九日でした。四日間の間、体調を崩さずベストの体調で走れるように生活には気を付けました。

前日の調整練習では体が動いたので不安なく当日を迎えることができました。レースはお昼頃のスタートだったのでとても暑く、とても緊張していましたが今まで練習したことを思い出し、結果は九位でインターハイへ駒を進めることができました。ラスト一周のスピードの切り替えが激しく上級生のラストスパートについていくことができませんでした。私はスピードがなかったので意識して今大会まで練習してきたのですが、最後のスピードで負けてしまいました、すごく悔しかったです。

来年またこの場所へ戻ってこれたら、今年の悔しさを笑顔に変えることができるように頑張る練習していきたいです。

写真部

二〇一四年度美しいとちぎのむら写真コンテストに応募して

二年二組 中谷 将輝

我が真岡北陵高校写真部は、校内での写真展示やコンクール用の写真の撮影を主としています。写真撮影は部員個々で自由に撮影する事が多く、シチュエーションを限定しないので、のびのびとした写真が沢山集まりました。

私自身、この部活に入部したきっかけは、当初兄が所属していた活動内容を聞いていたからという単純な理由で、徐々に写真撮影の面白さ、奥深さに惹かれていき、今では学校の外であっても出

最優秀賞受賞



中谷 作品



